

第15回 東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R6.6.21)

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により生産性の向上や、魅力ある建設現場を目指すことを目的とし、有識者、発注者及び建設業団体からなる会議を開催した。(東北地方整備局会議室&WEB会議システム併用)

- 【情報提供】(1)東北地方整備局からの情報提供 (2)関係機関におけるDX・i-Construction取組状況
 【議事】(1)規約の変更 (2)意見交換



◆出席者

- 【有識者】東北大学大学院 高橋特任教授、皆川准教授、宮城大学 蒔苗教授
 【国土交通省】東北地方整備局、i-Constructionサポート事務所
 【自治体】青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
 【業界団体】東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、建設コンサルタンツ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、日本建設機械以外協会東北協議会、日本道路建設業協会東北支部、建設電気技術協会、一般社団法人OCF東北部会

【議事】(2)意見交換

第14回会議で提案いただいた今後の意見交換テーマを3つに分類

- 分類1** 『具体的な取り組みの提案があったテーマ』⇒【即時実施】
 ・技術資料の展開、東北版ポータルサイトの開設、合同実務体験会
分類2 『制度・基準に関する個別テーマ』
 ⇒【個別に意見交換・調整の上、ICTサポーターとの連携や関係機関へ働きかけ】
分類3 『その他“DX”に取り組むにあたって整理しなければならない事項』
 ⇒【意見交換を重ね、今後の展開・行動につなぐ】
 ≪企業がDXに取り組むやすい体制確保を支援する取組≫
 ・経営者セミナー ・自治体や国の補助金制度
 ・ICTサポーター活用促進等の提案(依頼及び活動事例の共有、感謝状の贈呈、簡易チャレンジ型ICT活用工事アドバイザー制度の活用)

－ 有識者からのコメント －

- 東北版ポータルサイトの開設は今後の参考となるので充実させてほしい。
- ICTサポーターへの感謝状贈呈はモチベーション向上につながるためすぐ実施されたい。
- 確実に訪れるであろう労働力不足に対して、DX・i-Conを駆使して生産性向上を図ることは非常に重要であるが、建設業者が使命感で取り組むには限界があると感じている。取り組んだ分だけ企業が利益を確保できることが重要なので、取り組んだ成果・効果が確実にあるのか検証できるとよい。
- 社内のDX化(守りのDX)をトップダウンで進めるべき。経営者セミナーがより充実して成果があがり、DX・i-conが浸透することを期待したい。
- 人材育成に関する取り組みについて、スキルアップに繋がっているのか、建設業界に就職する人材が確実に増えているのか分析していただきたい。
- 中高生の進路に関する母親の影響力は大きい。保護者も巻き込んだ担い手確保の取り組みは今後も続けていただきたい。
- 最近の国の考え方は技術ベースからマネジメントベースに転換してきている。進んでいない企業に対して、こういったメニューがあってそれをやるとどうよくなるのか、インセンティブや金銭的援助も含め、仕事のやり方を変えていくということを共有する仕組みができていくとよい。

【情報提供】(1)東北地方整備局からの情報提供

- ・東北インフラDX推進室<訓令組織>について
- ・インフラ分野のDX・i-Constructionについて
- ・東北みらいDX・i-Construction連絡調整会議の取り組み
 みちのくインフラDX奨励賞、i-Construction・インフラDXセミナー、経営者セミナー、ICTサポーター認定制度、i-Construction新技術体験学習会の取り組み 等

【情報提供】(2)関係機関におけるDX・i-Construction取組状況

- ・各会員からの活動状況、取り組み状況の報告(資料共有)

【議事】(1)規約の変更

- 【事務局の変更】⇒ 東北インフラDX推進室
 ・東北地域のインフラDX体制強化のため新たに組織化